

図表 1-1 インタビュー結果一覧①

初期適応	取材者ID	初職の勤務先	初期適応状況	転職経験	大学生活満足	大学時代に注力した活動				備考
						①勉学	②クラブ・サークル	③アルバイト	④就職活動	
○	2	印刷	社内人脈作りで苦労しつつも、ロールモデルとなる部長から直接指導		まあ満足	△ クラスメイトが、体育会とは異なる世界の人との出会いの紐帯として機能。	◎ 剣道部。監督交代でレギュラー脱落、関係構築して返り咲き。服務、主務経験。	△ あまりやっていない	○ ベンチャー肌合わず。日本を支えてきた会社で冒險したい。「就活は楽しかった」。	高校は寮生活。偏った世界にストレスあり。「体育会だけと思われるのはいや」
○	5	総合電気	配属は意図と違ったが、交渉によりすぐに意中の仕事を獲得。		まあ満足	◎ 結果を出す自らに試験。偏差値と違う自身の能力の強み認識。ゼミ長経験。	◎ 学内サークルは2年で退部。社会人チームに飛び込みで所属。	◎ 多様な経験。プロのスタンス、チーム・組織の重要性、自身の志向と多くの気づき。	○ 「組織をよくしていく仕事かしたい」という自覚した志向のもとに、焦点を絞って活動	大学入試の不本意な結果が、主体性に火をつけ、数々の行動・活動と気づきをもたらした。
○	7	広告	優秀で妥協のない先輩に鍛えられ、仕事の基本姿勢を身につける		まあ満足	△ 授業は出るも勉強せず。授業はつまらなかったがマーケティングに興味。	◎ 部活は入り、サークルは履かず。自身でサッカーサークル創設。練習も遊びも全力。	◎ 興味本位で多様な経験。まとめ役ができるという自覚。	○ 内定獲得するも悔し就職は留年。インターン経験でキャリア主体性が大切と悟る。	「大学での一番の転機は就活。視野が広がった」。
○	12	情報システム	入社前に感じていた通り「いい人の多い会社」		まあ満足	× 専門的すぎて、ついていけなくなり、やる気が失せる。	○ ハンドボール部は人間関係で退部。3年から社会問題サークル、学園祭で発表。	◎ 弁当工場で長期。主婦パート中心で学生皆無。自ら働きかけ仕事領域拡大。	○ 遅いスタート。業界・仕事の志向は曖昧。ポイントは「どんな人が多いのか」。	入学時に人間関係構築に失敗。バイト、サークルでコミュニケーションの重要性に気付く。
○	14	都銀	自己鍛錬モードで初期から成果。三年目に役員表彰。		まあ満足	◎ 成績優秀、就活対策で敬しめゼミを選択。幹事経験。	◎ オールラウンドサークルで、できることを増やしたくて企画担当。組織感覚を学習。	○ 掛け持ちで多様な経験。効率的な時間の使い方を学習。	○ 大手志向。やりたこと志向なし。ゼミのOB訪問軸に地に足のついた就職活動。	いろいろと手広くやった経験は「誰にも負けない」。
○	15	外資IT	初期から成果を出し、トップセールスに。		まあ満足	△ 法律家への道を早期に断念。コソコソ組とは自分は合わない。	◎ ラケットボールサークルを自身で創設。関東大学委員長。全日本優勝。	○ スポーツクラブ、居酒屋の接客で世界を広げる。	○ 決め手は外的要因「皆と違う」「高年取」「社会に影響」「面白い奴が多い」。	浪人時代にラケットボールと出会う。大学では、キャリアリセットし、どんな行動こうと決める。
○	17	電子部品	配属職種にはギャップがあったが任せてもらい主体的に。		まあ満足	× 授業は出席しているだけ。	◎ 弱小コソコソサークルの印象がよく全週末を注ぎ込む。最後の大会で上位入賞。	○ 時給のいい家庭教師。教えるのは好きだったし、浪人時代の知識を使いたかった。	◎ 業界研究中心、自身の適性を踏まえBtoBに焦点。入社先はゼミで知っていた。	高校時代が不完全燃焼で、浪人。何か新しいことを始めたいと思っていた。
○	18	医療機関	常にどう対応するか考えている		まあ満足	△ 薬科目とらず、面白そうな講義のみ履修。4年時に大きく単位残す。	◎ 剣道部。推薦ではなく苦行の日々。公式戦不出場、でも4年間やりきる。	× ほとんどやっていない	○ WLB重視で公的職業志望。自己分析やエントリーシートは無縁の活動。	「もつと自由に好きな時間に剣道を」のために、定時で終わる仕事を選択。
○	23	精密化学	仕事はうまく回らなかったが、上司がサポート。温かく育てくれる風土は予想通り。		やや不満足	△ 講義には参加する人もと居場所を見つけた。	× 部活動は、高校で完全燃焼。	○ 小さな本屋で長期。大学生活の逃避場所が、ひきこもり離脱のナースリーにも。	◎ インターン、OB訪問を経て、素で付き合える価値観のあつた会社を探索。	入学時に人間関係構築に失敗。自分の居心地のいい場所を大切にしよう。
○	24	制御計測機器	新人トップ業績、4年目に専業主婦最年少でリーダーに抜擢。		とても満足	△ 授業には出たが興味持たず。頑張りなくても単位はとれる。個人で短期留学。	△ 馬術部に入るも早期練習がきつ、一年で退部。	◎ コーヒーチェーン長期勤務でコーチ昇格。自身のバイオリンでコンサート実施。	○ バイト先で営業向きと指摘される。グローバル企業に内定もしない会社に決定。	短期フランス留学、コンサート企画・実施と、自分でストレッチ目標を自然に設定できている。
○	25	アミューズメント機器	想定職種ではなかったが、問題なく順応		全く不満足	△ 1、3年時は単位不足で卒業が危ぶまれた。興味ある授業は多くあった。	△ 自身で遊びサークルを創設するも、スロッドにはまり離脱。	○ 接客系中心。金稼ぎのため。	△ 起業希望もまずは会社勤め。大手落ちが続くが、友人に同伴した会社にフィット感。	スロッドのめり込み、知識、情報をもとに作戦を立て、仲間と共有する経験あり。
○	27	情報システム	仕事に恵まれず転職活動するも、その活動によって自社を再評価。		まあ満足	△ 講義がつまらなくても内容で楽しめた。まじめに出ていたが徐々にサボるようになる。	○ 軽音サークルに入り浸り。強烈な友人との出会いで価値観変わる。	○ AVレンタルショップで、自分で考え、人に指示する価値観変わる。	○ 就職留年。初年度は音楽系で自滅。二年目は視野を広げ、最後は雰囲気重視。	働くことに迷ったが、視野・姿勢が変化。
○	30	損害保険	配属ショックも、上司の強力サポートを得て主体的に対応。		まあ満足	◎ 一年次一位、卒業次二位の成績。TOEIC卒業時800点。留学が最高の財産。	△ オールラウンド、サッカーと渡り歩いたが、真剣味に欠けるリタイア。	△ 金稼ぎより、充実した時間を重視。	○ 目と耳で情報獲得。就活ノート5冊。対人関係勝負の仕事が向いていると判断。	受験失敗も浪人はできず。大学生活では「楽しめないところ」に自分を追い込もうと決意。
○	31	鉄道	下積み仕事も割り切り楽しむ		どちらともいえない	△ まじめに出席はしていたが、歴史が好きという高校時代の興味は薄れた。	◎ 特待生に誘われ柔道部。圧倒的な実力差、きつい練習も辞めぬ気なし。主務経験。	○ 飲食系二カ所。いろいろあったが、接客の面白さ、仲間との交遊で辞められず。	○ 志望イメージなく、いろいろ回り、フィット感重視。ハウツウは無視。	主務の失敗経験で、組織として動く、受けた恩恵は返すというスタンス形成
○	32	通信	二年目で副支店長抜擢。会社が民事再生で続かなかったが。	○	やや不満足	○ 講義に出なくなり、メンタルで休学。復学後まじめに出席。	× 合気道部に入るも、腰を痛め数か月で退部。	◎ ドラッグストア。休学明けに開始。雑貨担当、仕入れ・陳列など任される。	○ ハウツウを意識せず数を回るも在籍年数のためか全滅。新興系通信に興味。	メンタル休学で7年間在籍。復学を機に、受け身から主体的へとスタンス変更。

大学時代の満足度を見ると、適応者 15 名のうち 11 名は満足であり、うち一名がとても満足と回答している。不適応者 17 名のうち 15 名は満足であり、うち 9 名がとても満足と回答している。先行した定量調査においても、大学時代の満足度の高さと、入社後の適応、会社満足、仕事満足との間には、明確な関連は見られないという結果が表れていた（ワークス研究所，2011）が、インタビュー結果は、それを追認すると同時に、逆相関の傾向すら伺わせている。ただし、この傾向は、社会人以降の状況が芳しくないために、相対的に大学

生活を高く評価する、ということに起因するとも考えられるので、性急な判断は禁物である。

キャンパスライフの主要四項目に関する注力状況（◎＝注力した ○＝やや注力した △＝あまり注力していない ×＝注力していない）を集計して適応・不適応者のスコア同士を比較する（図表 2）と、「クラブ・サークル」ではほとんど、「アルバイト」に関しても差のない結果となっている。「就職活動」については、適応者 15 名のうち 14 名が注力しているのに対し、不適応者 17 名のうち 7 名が注力しておらず、そのことが不適応の直接

- 本田由紀, 2005, 『多元化する「能力」と日本社会——ハイパーメリトリクシー化のなかで』NTT出版。
- , 2008, 『軋む社会』双風舎。
- , 2009, 『教育の職業的意義』筑摩書房。
- 堀健志・濱中義隆・大島真夫・苅谷剛彦, 2007, 「大学から職業へⅢその2——就職活動と内定獲得の過程」『東京大学教育学研究科紀要』46: 75-98。
- 堀有喜衣編, 2007, 『フリーターに滞留する若者たち』勁草書房。
- 兵藤智佳・岩井雪乃・西尾雄志, 2010, 『世界をちょっとでもよくしたい』早稲田大学出版部。
- 居神浩・三宅義和・遠藤竜馬・松本恵美・中山一郎・畑秀和, 2005, 『大卒フリーター問題を考える』ミネルヴァ書房。
- 稲泉連, 2010, 『仕事漂流』プレジデント社。
- 石渡嶺司・大沢仁, 2008, 『就活のバカヤロー』光文社。
- ・常見陽平, 2009, 『強い就活!』ディスカヴァー・トゥウェンティワン。
- 岩脇千裕, 2007, 「日本企業の大学新卒者採用におけるコンピテンシー概念の文脈——自己理解支援ツール開発にむけての探索的アプローチ」『JILPT ディスカッションペーパー』07-04。
- , 2006, 「大学新卒者に求める『能力』の構造と変容——企業は即戦力を求めているのか」『Works Review』創刊号。
- , 2004, 「大学新卒採用における「望ましい人材」像の研究——著名企業による言説の二時点比較をとおして」『教育社会学研究』74: 309-327。
- , 2008, 『理想の人材像と若者現実』労働政策研究・研修機構ディスカッションペーパーVol. 6。
- 城繁幸, 2006, 『若者はなぜ3年で辞めるのか?』光文社。
- 金井壽宏, 2002, 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所。
- 苅谷剛彦・平沢和司・本田由紀・中村高康・小山治, 2006, 「大学から職業へⅢ その1——就職機会決定のメカニズム」『東京大学教育学研究科紀要』46: 43-47。
- ・岩内亮一・平沢和司, 1997, 『大学から職業へⅡ——就職協定廃止直後の大卒労働市場』広島大学大学教育研究センター。
- ・本多由紀編, 2010, 大卒就職の社会学, 東京大学出版部。
- 川端裕, 2008, 『5年後に勝ち組となる就活の極意』TAC出版。
- 河本敏弘, 2007, 『誰がバカをつくるのか?』ブックマン社。
- 香山リカ, 2009, 『悪いのは私じゃない症候群』KKベストセラーズ。
- 経済産業省, 2006, 『社会人基礎力に関する研究会——中間まとめ』
- 小杉礼子, 2007, 『大学生の就職とキャリア』勁草書房。
- 黒澤昌子・玄田有史, 2001, 「学校から職場へ——「七・五・三」転職の背景」『日本労働研究雑誌』490。
- ジーン・レイヴ&エティエンヌ・ウエンガー, 1993, 『状況に埋め込まれた学習——正統的周辺参加』産業図書
- 前川孝雄, 2008, 『頭痛のタネは新入社員』新潮社。
- 松繁寿和, 2004, 『大学教育効果の実証分析』日本評論社。
- 三浦展・原田曜平, 2009, 『情報病』角川書店。
- 溝上慎一, 2001, 『大学生の自己と生き方』ナカニシヤ出版。
- , 2002, 『大学生論』ナカニシヤ出版。
- , 2004, 『現代大学生論 ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる』日本放送出版協会。
- , 2007, 「現代大学生の学びと人生形成——知識・技能獲得に影響を及ぼす学習タイプの差異」『日中教育学系合同シンポジウム2007 論文集』94-109。
- , 2008, 『自己形成の心理学』世界思想社。
- , 2010, 『現代青年期の心理学』有斐閣。
- 森健, 2009, 『就活って何だ』文藝春秋。
- 森口朗, 2007, 『いじめの構造』新潮社。
- 守島基博, 2010, 『人材の複雑方程式』日本経済新聞出版社。
- 内藤朝雄, 2009, 『いじめの構造』講談社。
- 中間玲子, 2008, 「“自分探し”類型化の試みとそれぞれの特徴について——“自己違和感”と“自己開拓意識”の枠組みからの検討——」『福島大学研究年報』第4号。
- 日本労働研究機構, 1992, 『大学就職指導と大卒者の初期キャリア』調査研究報告書No. 33。
- , 1994, 『大学就職指導と大卒者の初期キャリア(その2)——三五大学卒業者の就職と離職』調査研究報告書No. 56。
- , 1995, 『大卒者の初期キャリア形成——「大卒就職研究会報告」』調査研究報告書No. 64。
- 日本私立大学連盟, 2007, 『私立大学 学生生活白書 2007』日本私立大学連盟。
- 西平直, 1997, 『「アイデンティティ」出自——その言葉の生きて働く場面』「アイデンティティ(エリクソン理論)の本質を探る」日本教育心理学会第39回大会発表論文集。
- 西平直喜, 1990, 『成人になること——生育史心理学から——』東京大学出版部。
- 尾形真実哉, 2008, 「若年就業者の組織社会化プロセスの包括的検討」『甲南経営研究』甲南大学経営学会。
- 大久保幸夫, 2006, 『キャリアデザイン入門 I 基礎力編』日本経済新聞出版社。
- 大竹文雄, 2010, 『競争と公平感』中央公論新社。
- 労働政策研究・研修機構, 2007, 『大学生と就職——職業への移行支援と人材育成の視点からの検討』労働政策研究報告書No. 78。
- , 2007, 『JILPT 若年者の離職理由と職場定着に関する調査』(<http://www.jil.go.jp/institute/research/2007/036.htm>)
- 佐々木政司, 1993, 「組織社会化過程における新入社員の態度変容に関する研究——幻滅経験と入社8ヶ月後の態度・行動の変化——」『経営行動科学』8: 23-32。
- 佐藤孝司, 2010, 『<就活>廃止論』PHP研究所。
- 千石保, 2001, 『新エゴイズムの若者たち——自己決定主義という価値観』PHP新書。
- 下村英雄, 2009, 「就職に有利な学生は… 対人関係・勉学 意識高く」『日本経済新聞』2009年7月20日朝刊。
- 白井利明, 2008, 「学校から社会への移行」『教育心理学年報』47: 159-169。
- 杉村太郎, 2010, 『絶対内定2012』ダイヤモンド社。
- 鈴木竜太, 2002, 『組織と個人——キャリアの発達と組織コミットメントの変化——』白桃書房。
- 高橋俊介, 2009, 『自分らしいキャリアのつくり方』PHP研究所。
- 武内清編, 2003, 『キャンパスライフの今』玉川大学出版部。
- 編, 2005, 『大学とキャンパスライフ』ぎょうせい。
- 辰巳哲子, 2006, 「すべての働く人に必要な能力に関する考察」『Works Review』創刊号。
- 豊田義博, 2009, 『戦略的「愛社精神」のススメ』プレジデント社。
- , 2010, 「就活に潜むリスク」『Works Review Vol. 5』リクルートワークス研究所。
- , 2010, 『就活エリート迷走』筑摩書房。
- , 2007, 『「上司」不要論』東洋経済新報社。
- M・トロウ著, 喜多村和之編訳, 2000, 『高度情報社会の大学』玉川大学出版部。
- 内田樹, 2007, 『下流志向』講談社。
- , 2009, 『日本辺境論』新潮社。
- 内田千代子, 2007, 『大学における休・退学, 留年学生に関する調査 第28報』茨城大学保健管理センター。
- 若林満・南隆男・佐野勝男, 1980, 「わが国産業組織における大卒新入社員のキャリア発達過程——その継時的分析——」『組

-
- 織行動研究』6 : 3-131。
- 若松養亮, 1995a, 「大卒就職者の初期適応過程に関する要因探索的研究—本学部卒業生の事例データからの考察—」『東北大学教育学部研究年報』43 : 193-208。
- , 1995b, 「大卒就職者の初期適応過程の研究—進路指導及び就職後の教育・研修・処遇の課題を検討しながら—」『悠峰職業科学研究紀要』3 : 40-47。
- ワークス研究所, 2010, 『「新卒採用」の潮流と課題—今後の新卒採用のあり方を検討する—』リクルート ワークス研究所。
- , 2010, 「人材育成『退国』から『大国』へ」『Works No. 100』リクルート ワークス研究所。
- , 2010, 「新卒選考ルネサンス……習慣化した採用手法を打破せよ」『Works No. 102』リクルート ワークス研究所。
- , 2011, 『20代のキャリアと学生時代の経験に関する調査報告書』リクルート ワークス研究所。
- 和田秀樹, 2010, 『なぜ若者はトイレで「ひとりランチ」をするのか』祥伝社。
- 渡邊三枝子, 2008, 『アメリカでのキャリア発達研究の理論的展開—なぜ進路選択からキャリア支援なのか』大学生研究フォーラム講演録。
- 山田礼子, 2010, 『学生の認知的・情緒的成長を支える高等教育の国際比較研究』日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B)。
- 矢野眞和, 2005, 『工学教育のレリバンス』平成14-16年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)(1)。
- , 2009, 「教育と労働と社会—教育効果の視点から」『日本労働研究雑誌』51(7) : 5-15。
- 谷内篤博, 2005, 『大学生の職業意識とキャリア教育』勁草書房。
- 吉野聡, 2009, 『それってほんとに「うつ?」』講談社。